

平成29年第1回四條畷市議会定例会

所信表明

四 條 畷 市

## 【はじめに】

平成29年第1回四條畷市議会定例会の貴重なお時間をいただき、今後の市政推進について私の所信の一端を申し述べ、議員各位並びに市民の皆さまのご理解とご協力を賜りたいと存じます。

なお、今回は骨格的予算でありますので、5月議会にて肉付け予算をご審議いただく際に、改めて詳細な政策像を申し述べさせていただきますので、ご理解賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

私は、市民の皆さまの温かいご支援をいただき、第5代四條畷市長に就任いたしました。私に投じていただいた10,659票。そして、他候補者に投じられた8,407票。どちらの票の重みも全身で感じながら、市民5万6千人の代表として、「四條畷を良くしたい」という思いを胸に、本市の発展のためこの身を捧げる覚悟です。

私が市長として取り組まなければならないことは、大きく3つだと考えております。それは、「変えること」、「守ること」、「創造すること」です。

## 【変えること】

まず、1点目の変えることにつきましては、今の四條畷市役所という組織を変えなければならないと考えています。私は就任して直ちに、他の41自治体の首長らとともに『労働時間革命自治体宣言』への賛同を表明いたしました。この意図には、「働き方を一から見直すことで、これまで当たり前と考えていたことも見直してほしい」との思いもあります。

変容する世界、超少子高齢化が押し寄せる日本、多様化の一途をたどる社会。こうした苦境に置かれた私たちに、慣例、しがらみ、前例主義に縛られている余裕などありません。働き方の見直しをきっかけとして、こうした旧来の考え方を換え、今一度、全ての事業を洗い出して精査することで、削るべきものは削り、伸ばすべきものは伸ばす。そうしたメリハリの効いた予算編成を行ってまいります。

その際に重要なことの1つに、縦割り行政に陥らないことが挙げられるかと思います。私も霞が関で働いていましたので実感しておりますが、役所における縦割り意識はとても強いものがあります。それを緩和するため、市役所内の各種施策を横断的に見渡し調整する役割を担う調整監というポストを、就任後すぐに新設いたしました。今後も、組織横断的な仕組みづくりに取り組んでまいります。

また、他市との横並び意識に囚われないことも重要です。「よその市でもやっているから、うちの市でもやる」というような政策立案では、近隣市と比較して人口や予算が小規模な本市に未来はありません。市民の皆さまの税金を効果的に使わせていただくためにも、今後は、マーケティング手法を取り入れた戦略的政策立案を実行してまいります。

加えて、多角的な視点から政策を考えることも必要です。例えば、本市に部長級以上の女性職員がいない現状を踏まえると、より政策に女性の視点を反映させ、先導的に推進するためにも、女性副市長を選任することも視野に入れております。

併せて、先細りが予想される国からの支援と多様化する市民ニーズへの対応とを考えれば、今後、市役所だけで全てのニーズに伝えていくことが難しいのは明確です。そのため、企業やNPOなどの機関や組織、団体との連携を積極的に図り、民間活力の導入による包括的な施策構築を推進していくことも重要であると認識しております。

しかし、何より重要なのは、紙面やデータだけに基づいた空論に終わらせないということです。そのためにも、対話を重視したまちづくりが不可欠であると考えております。そしてこれこそがまさに、私が訴え続けてまいりました「市民中心のまちづくり」の肝に当たります。

そのような視点から、本市にとって非常に大きな論点であるまちづくり長期計画の見直しを行ってまいります。特に小中学校の再編整備については、市長就任後、直ちに、総合教育会議を開催いたしました。教育長をはじめとする教育委員の皆さまと対話を行い、「安心・安全と子どもたちの心的負担を最も重要視する」という共通認識を図るとともに、今後の進め方についての協議をさせていただきました。

それと平行して、実際に市内小中学校を順次訪問し、自らの目で現場を見させていただくとともに、各学校長との意見交換を行っております。

さらには、各地区の区長やPTAなどの関係団体の代表者からも、それぞれのご意見を伺っているところです。

それだけにとどまらず、この後は、市域内の幅広い年齢層を対象とした意識調査を実施することも考えております。これまで積み重ねてきた議論を尊重しつつ、意見交換や意識調査の結果を総合的に考慮した上で教育委員会と協議を行い、一定の方針を定めた後、私自らが臨む意見交換会における市民の皆さまとの対話を通じ、理解を求めてまいります。

また、もう1つの大きな論点である田原活性化についても、市民の皆さまとの対話を重視してまいります。その準備として、就任直後に庁内検討委員会を立ち上げ、各種関係機関や団体等との意見交換を進めているところです。今後は、私を本部長とする田原活性化対策本部を早期に

設置する予定にしております。

併せて、生活面での課題一つひとつを汲み取るため、田原支所内窓口アンケート、意識調査、地区ごとの意見交換会を行っていくことで、検討すべき題材を丁寧に抽出してまいります。このような経過を踏まえたうえで、俯瞰的な視座で地域の特性が活きるまちづくりに取り組んでまいります。

## 【守ること】

次に、2点目として「守ること」、すなわち「安心・安全のまち」を実現していくことが重要です。

まず、高齢者の皆さまには、いつまでも健康に元気に生活ができ、また買い物や病院への外出時も気軽に家から行けるような施策を推進してまいります。

そのため、単に介護を要する方への施設を増加させていくのではなく、高齢になっても最期まで住み慣れた家や地域で安心して暮らせる環境づくりが重要であると考えております。

例えば、高齢の方々が集える場の充実はその1つとして挙げられます。

また、バスなどの交通環境の整備も重要です。関連する施策について

は、高齢者の視点に立つことはもちろん、単眼的な施策に陥ることなく、市場調査及び分析をしっかりと行った上で、先進自治体の導入事例も参考に、包括的かつ効果的に取り組んでまいります。

また、各種検診の受診率を向上させていくとともに、認知症や要介護の未然防止対策を進めるなど、継続的な医療や介護に頼らず、心身ともに健康で自立した生活を送れるような施策にも取り組んでまいります。

そして、子どもをめぐる課題が多様化しているため、学校に行きにくい子どもの居場所づくりなど、子どものセーフティーネットを充実させることも重要です。また、子どもが安心・安全に通学するための防犯カメラの整備やパトロールなどの地域における見守り活動を強化するなど、教育委員会と連携し、市域全体で子どもを守る施策に取り組んでまいります。

加えて、防災面の対策も欠かせません。近年では、東日本大震災をはじめ、広島県の土砂災害、熊本県や鳥取県での大地震が続いている上、今後は南海トラフの影響による災害も予測されております。本市においても、危機管理体制をより一層強化していくと同時に、市民の皆さまとともに防災体制を充実してまいります。

## 【創造すること】

最後に、3点目の「創造すること」についてです。若い世代が急速に減少しているいま、本市にとって最も重要なのは、「住み続けたいくなる、あるいは引っ越して来たいくなる」ほどの魅力をこの四條畷に創造していくことと考えております。苛烈な自治体間競争が進む中、中途半端な政策ではなく、積極的に本市を選びたいくなるような特色のある政策立案が急務です。

その中でも、子育て支援政策が最も重要であることは論を俟たないかと思えます。近隣市においても、特徴的で様々な子育て支援施策に取り組んでおられますが、本市独自の施策を見出し、他市との差別化が図られるような取組みを進めていく必要があります。

このような思いのもと、本市では「切れ目のない子育て支援」を主眼に取り組んでまいります。妊娠期であるマイナス1歳から18歳までの子どもを対象とし、包括的な施策を講じることで、どこよりも安心して子育てできる環境づくりをめざします。そのために、プロジェクトチームを早期に設置する予定としております。

そして、本市で育った子どもたちが、成人した時に自信と誇りを持って、この地で生まれ育ってよかったと思える環境づくりにも注力してまいります。そのためには、子どもの教育において、就学前からの取組み



がこれまで以上に重要であると考えており、学校教育との連続性を重視しつつ、更なる連携強化に努めてまいります。

次に、昨年オープンしました総合公園につきましては、利便性の向上はもちろんのこと、よりランニングコストを意識した運営が重要と考えております。他の大きな公園と変わらないのであれば、大きな費用をかけて整備する必要はありません。今後の整備では、他市からも利用していただけるような他にはない魅力に満ちた公園とするため、内容や活用方法の再検討を行います。また、それとは別に、子どもたちの遊び場としての地域の身近な公園の環境整備にも取り組んでまいります。

また、地元産業がより活性化していくことも重要です。「稼げない自治体に未来はない」という覚悟を持ち、産業活性化にも取り組んでまいります。近年の激化する産業界の現状を考えると、私は産業政策に精通した人材の登用が不可欠と考えております。そうした外部の新たな視点を加えた上で、本市産業の魅力創造に、商工会をはじめとした商業団体や農業団体などとの連携を図りながら取り組んでまいります。

また、先人から受け継いできた飯盛山系の豊かな自然や、歴史的な文化遺産など、本市の特色を活かした観光施策を展開し、市内外の皆さまが観光を楽しんでいただけるよう取り組んでまいります。

## 【結びに】

以上、市政運営に臨む私の3つの基本的な考えを述べさせていただきました。

ただし、この3つの基本的な考えの中で申し上げた具体案については、まだまだ例示に過ぎないと考えております。私一人の考えだけでなく、もっともっとたくさんの方々の方々の知恵をお借りすることで、3つの基本的な考え自体をぶれることなく一貫させながらも、より良いアイデアを生み出していく。これこそが、私が掲げる「市民中心のまちづくり」です。

現在、人口についても財政についても、どの自治体も苦しい状態にある中で、どちらも小規模である本市は、他市よりも一層厳しい状態にあるのかも知れません。そうした状況の中、政治経験のない28歳の人間が、市長として市民の皆さまに選ばれました。

しかし、私の努力だけでは到底足りません。議会の皆さまのお知恵をお貸しいただきたい。四條畷市政に携わる関係者の方々にご協力いただきたい。そして、すべての市民の皆さまのお力をお貸しいただきたい。

しかしそのためにも、誰よりもこの四條畷のことを考え、誰よりも四條畷のために行動することを、ここに固くお誓い申し上げます。

皆さまとともに「新しい畷」を創り上げていく過程には、苦渋の選択を強いられる局面もあるでしょう。それでも、市民の皆さまが納得してもらえるような結論に至るまで、とにかく行動を起こし、徹底的に議論を重ねていく覚悟です。ご理解とご協力をいただきますよう、何卒よろしくお願ひ申しあげます。